

大阪府森林組合通信

2016.11 Vol.31

岐阜県銘木協同組合のセリに出品されたケヤキ 9.0m 材

8月18日 第15回大阪府森林組合 通常総代会を開催しました。

当組合は第15回通常総代会を8月18日午後2時より、大阪市中央区の国民會館大ホールにおきまして、大阪府副知事の竹内様、高槻副市長の石下様、近畿中国森林管理局次長の合田様をはじめ、関係各方面より多数のご来賓をお迎えし、総代243名中178名（うち委任状64名）の出席により開催いたしました。

議案は
第1号議案
「平成27年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、剰余金処

分案、注記表及び附属明細書の承認について」
第2号議案
「平成28年度事業計画の設定について」
第3号議案
「平成28年度借入金金の最高限度額の決定について」
第4号議案
「平成28年度余裕金預け入れ先の決定について」
第5号議案
「役員の補欠選任について」
第6号議案
「役員報酬の決定について」
附帯決議



大阪府竹内副知事

を上程させていただき、各議案とも原案通り可決・承認をいただきました。

ご挨拶



大阪府森林組合
代表理事組合長 栗本 修滋

本年8月18日、第15回総代会を無事終えることができました。組合員の皆様の格別のご高配に厚く御礼申し上げます。

さて、そろそろ山々の紅葉がはじまろうとしています。が、残念ながら、今年は夏を過ぎたところから葉が赤茶け、紅葉と見間違えうほどナラ枯れが

拡大しています。北摂地域と中河内はずでに蔓延している南河内、泉州に広がるのも時間の問題となっています。ナラ枯れで枯れた木は大木が過半を占めますから、それが倒れると、山崩れの原因ともなり、斜面直下の人家や道路が被害を受けます。大阪府では今年から始まる森林環境税事業でナラ枯れ対策に取り組んでいただくことになっていきます。主要道路の直上の枯れた木を伐採し、安全を確保することが直接的な狙いですが、伐採後の植栽なども計画されています。

ところで数年前までは、白山あたりのミズナラのナラ枯れを引き起こしているカシノナガキクイムシが京都まで広がり、北摂に伝染したと言われていました。最近の見解では、もともと関西周辺に生息しているカシノナガキクイムシのようです。ご存知のように、クヌギやコナラが使われなくなつて大木化したことがカシノナガキクイムシを元気づけたようです。その一方、今年はシイタケ原木が全国的に不足して、組合員さんにも原木を満足に供給できなかったことを、申し訳なく思っている次第です。これを機に、組合員の皆様のご理解を得てクヌギ林などで萌芽更新による若返り事業を考えたいと思っています。先人が守り育ててきた山の資源を後世に引き継げるように職員とともに尽力したいと思います。

Contents

第15回大阪府森林組合通常総代会を開催しました	1
平成27年度決算報告	2
平成28年度事業計画	3
トピック	3
ご存知ですか？森林の土地を取得したときは届出が必要です。	4
京都府立森林大学から2名のインターン生を受け入れ	4
「丸太交差工」の考案	4

この秋「オープンたかつき」が始動	4
河内長野市から「木」のPR映像制作を受託	5
モデルプランをラインナップへ	5
木根館、ラ・フォレスト イベントのお知らせ	5
能勢妙見山 山の日フェスタ開催	6
近畿ブロック林業研究グループ活動発表コンクールで2位入賞！	6
全国育樹祭に出席してきました。	6

平成27年度決算報告

貸借対照表（平成28年5月31日現在）（単位：円）

科 目	内 訳	小 計	合 計	科 目	内 訳	小 計	合 計
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産				流動負債			
現金・預金		944,771,007		買掛金		3,177,278	
さきもり基金		506,097,683		未払金		122,599,442	
受取手形	18,839,437			前受金		13,284,794	
売掛金・未収金	42,528,498			預り金		7,384,857	
上記2項目の貸倒引当金	△ 406,000	60,961,935		その他		23,450,400	
たな卸資産		26,402,574		流動資産合計			169,896,771
その他		10,378,718					
流動資産合計			1,548,611,917	固定負債			
固定資産				農林漁業資金借入金		26,371,672	
有形固定資産	1,118,697,196			林構施設借入金		51,556,073	
減価償却累計額	△ 789,199,498	329,497,698		預り保証金		9,670,000	
無形固定資産		460,668		退職給付引当金		121,951,310	
				役員退任慰労金引当金		11,909,152	
外部出資				基金預り金	504,000,000		
系統出資金		35,870,000		組合拠出金	△ 88,100,000	415,900,000	
系統外出資金		19,831,960		その他積立金・基金		498,775,340	
外部出資金合計		55,701,960		固定負債合計			1,136,133,547
その他の固定資産				負債合計			1,306,030,318
農林漁業資金貸付金	26,371,672						
貸倒引当金	△ 177,000	26,194,672		(資本の部)			
その他		5,000,000		出資金		201,195,000	
その他の固定資産合計		31,194,672		出資金合計			201,195,000
固定資産合計			416,854,998	剰余金			
資産合計			1,965,466,915	準備金・積立金		384,273,935	
				当期末処分剰余金		73,967,662	
				剰余金合計			458,241,597
				資本合計			659,436,597
				負債・資本合計			1,965,466,915

1. 受取手形の割引高は0円である。
2. 受取手形の裏書譲渡高は0円である。

損益計算書（平成27年6月1日～平成28年5月31日）（単位：円）

科 目	小 計	合 計
I 事業総損益		
1. 収益	1,272,294,536	
2. 費用	1,000,276,820	
事業総利益		272,017,716
II 事業管理費		
1. 人件費	191,258,906	
2. 旅費交通費	3,778,676	
3. 事務費	5,533,072	
4. 業務費	3,910,478	
5. 諸税負担金	4,918,516	
6. 施設費	59,221,451	
7. 雑費	395,513	
事業管理費計		269,016,612
事業利益		3,001,104
III 事業外損益		
1. 事業外収益	11,273,937	
2. 事業外費用	3,312,352	
事業外損益		7,961,585
経常利益		10,962,689
IV 特別損益		
1. 特別利益	28,964,775	
2. 特別損失	1,589,375	
特別損益		27,375,400
税引前当期利益		38,338,089
法人税及び住民税額		2,339,135
当期剰余金		35,998,954
前期繰越剰余金		37,968,708
当期末処分剰余金		73,967,662

部門別損益計算書（単位：円）

部 門 別	費 用	収 益	損 益
指 導 部 門	1,794,221	1,746,482	△ 47,739
販 売 部 門	162,626,063	178,682,737	16,056,674
加 工 部 門	113,838,962	124,791,174	10,952,248
森林整備部門	722,017,610	967,074,143	245,056,533
合 計	1,000,276,820	1,272,294,536	272,017,716

平成27年度剰余金処分案（単位：円）

摘 要	積算内訳	小 計	合 計
I 当期末処分剰余金			73,967,662
II 剰余金処分額			
1. 法定準備金	当期剰余金の5分の1以上	7,200,000	
2. 任意積立金		0	7,200,000
III 次期繰越剰余金			66,767,662



■ 各支店の重点取組事項

○豊能支店

- 薪を中心とした広葉樹林の資源循環利用促進。
- 林縁部における緩衝帯整備など獣害対策の推進。
- 松茸山再生整備の研究と実践。
- 林業担い手などの人材育成のための事業の実施。

○三島支店

- 蓄積された技術と経験、資格を兼ね備えた人材と保有機械設備を活用する事業の提案、獲得、実行。
- 行政または民間と連携した地域森林整備の継続発展。
- 事業の効率化及び技術向上により、生産力の増した間伐材生産に対する地域での需要創出。

○南河内支店

- 木材の生産～流通～加工～利用というそれぞれの機能を高度発揮させ、事業の確立とフローの構築を図る。

- 市街地などにおける樹木や草地の管理など、組合の技術を生かすことができる公共及び民間発注事業の受注拡大を目指す。
- バイオマス発電所へのチップ供給など、間伐材の新たな活用の模索と事業化に向けた取り組みの推進。

○泉州支店

- 地元市町との関係強化。
- 「いずもく」を主軸とした販売事業の拡大。
- 民間事業の受注拡大。

○特別事業部

- 森林観光センターは関係各機関と運営状況など情報の共有につとめ、連携して安定運営を進める。
- バイオコークスの新たな利用方策を探り、事業化を目指す。

平成28年度事業計画

平成28年度においては、組合員所有森林を中心に森林経営計画を策定しながら、施業の集約化による効率的な森林整備に取り組むとともに、搬出した木材の有効活用を進めます。

今後は用材のみならず、従来、放置していた未利用材も燃料材として利用するなど、木材資源の高度利用を図ります。

さらに平成28年度より実施される大阪府の「森林環境税」においては、持続的な森づくりに寄与する森林作業道の恒久化を進める事業を、府内10箇所を実施予定です。

当組合では、本事業の推進を森林防災機能や水源涵養機能の向上につなげることで、府民の安全安心に寄与するだけでなく、組合員の貴重な財産である森林資源の保全に結び付けられることから、重要な責務と考えています。

加えて大阪府及び関係市町村が発注する森林整備など各種事業についても、組合の運営を支えるための必要な業務と位置付けて、入札への参加など積極的に事業の獲得に向けた取り組みを進める予定としています。

昨年末に発生した大きな事案を乗り越え、より健全な組織になったことを内外にお示しする1年にするため、役職員一同、奮励努力する所存です。

加えて各支店においては、下記に挙げる項目を重点取り組み事項として位置付け、事業の推進を図ります。

平成28年度事業計画

1 損益及び取扱計画

(単位:千円)

部 門	費 用	収 益	損 益
指導部門	1,960	1,840	△ 120
販売部門	172,710	191,000	18,290
加工部門	112,630	126,000	13,370
森林整備部門	810,980	1,033,567	222,587
合 計	1,098,280	1,352,407	254,127

2 損益計画

(単位:千円)

- I. 事業総利益……………254,127
- II. 事業管理費……………253,600
- III. 事業外損益……………3,046
- IV. 特別損益……………6,699
- V. 利益剰余金(税引前剰余金)…………… 10,272

木材自給率が33.3%に上昇も総需要量は0.7%減

最新データとなる平成 27 年の木材自給率が 9 月 27 日に発表され、前年より 2.1 ポイントアップの 33.3% に上昇しました。木材需給率は一昨年、26 年ぶりに 3 割台に回復後、堅調な動きを示しています。しかし木材総需要量は前年比マイナス 0.7% の 7,530 万㎡に縮小しています。

木質バイオマス発電向けの燃料材需要は右肩上がりの伸びを示すものの、建築向けの建築用材と合板用材の需要が前年を下回る結果となりました。

需要の減少に加え、外国からの輸入材も減少していることから、国産材の割合が相対的に増加する構図を描いています。

5 月に閣議決定された新たな森林・林業基本計画では、目標年度である平成 37 年度の木材総需要量を 7900㎡と予測し、その 5 割超である 4000㎡を国産材で賄う計画としています。

平成29年度林野予算要求は17.2%増の3,436億円

林野庁は8月31日に、来年度（平成 29 年度）予算概算要求を財務省に提出しました。

要求総額は 3,436 億 3,800 万円で、対前年度比 17.2%の増。森林整備・治山事業はともに対前年度比 20%増となりました。

また、需要に応じた低コストで効率的な木材生産・供給・利用を実現するため、間伐材生産・路網整備やCLTなどを製造する木材加工流通施設、木質バイオマス関連施設、苗木生産施設等の整備を総合的に支援する次世代林業基盤づくり対策（150 億円）などを盛り込みました。

林業関連事業者の経営実態調査

企業の信用調査を行っている帝国データバンクが、政府が成長産業化を目指す「林業」にスポット当て、2014 年及び 2015 年決算の売上高が判明した林業関連事業者 1616 社を抽出し経営実態調査を行いました。

事業者の規模は全体の約 54%が売上 1 億円未満であり、また全体の約 66%が従業員 10 名未満の中小規模事業者です。

都道府県別では宮崎県が最多の 80 社、次いで青森県（70 社）、岩手県（60 社）と続き、最小は大阪府（2 社）です。

抽出された林業関連事業者の 2015 年の売上高合計は約 4502 億円と前

年比 7.1%増となり、増収と回答した事業者は 534 社で全体の 33%を数えます。

また代表者の年齢は判明した事業者 1140 社で、全業種平均より 5.2 歳上回る結果となり、他業者と比較し高齢化が進んでいることが判明しました。

結果として木質バイオマスや CLT など、新たな木材需要の促進が図られることにより、林業全体の活性化が図られることが期待される一方で、需要拡大に対する木材の安定供給体制の構築と高齢化する後継者問題が課題として挙げられています。

ご存知ですか？ 森林の土地を取得したときは 届出が必要です。 ～森林の土地の所有者届出制度

平成24年4月より森林の土地所有者の把握を進めるため、森林法に基づく森林の土地所有者となつた旨の届出制度が創設されました。これは森林整備を進めるうえで、「行政が把握していないと必要な助言などができない」とことや施業の集約化を図る上で「森林所有者への働きかけが必要」という観点によるものです。



役場

ります。

届出書の様式は市町村役場に備え付けられており、届出に際しては、①対象となる森林の位置を示す図面（任意の図面に大まかな位置を記入したもの）、②森林の登記事項証明（写し可）、または土地の売買契約書、相続の場合は相続分割協議の目録、土地の権利書の写しなど権利を取得したことが分かる書類の添付が必要です。届出を行わない、もしくは虚偽の届出をした場合は、10万円以下の過料が科される場合があります。

森林を売却した場合も次の所有者の方に、本制度をお伝えいただき、所有者が分からない森林を少しでも減らして、健全な森林整備につなげていきたいと思ひます。制度を詳しくお知りになりたい方は、組合もしくは市町村の担当窓口、都道府県の出先機関までお問い合わせください。



※都道府県が策定する地域森林計画の対象となつている森林。登記上の地目に関わらず森林の状態になつている場合は届出の対象となる可能性が高いので注意。

京都府立森林大学校から 2名のインターン生を 受け入れ

国が提唱する林業・木材産業の成長産業化に向け、全国各地で担い手を養成する林業に関わる教育機関の開設が進んでいます。

当組合でも若年の林業作業者の確保が喫緊の課題となっていることから、その動向に注目しています。

そのような中、以前くみあい通信でも紹介した京都府立森林大学校より、20歳の学生2名をインターンとして受け入れることとなり、10月11日から約20日間、三島支店と南河内支店で1名ずつ、組合の職員とともに現場作業を体験してもらう機会を得ました。

2名とも大阪府内の出身で、林業への就業を志し、京都の森林大学校の門を叩いたとのことで、当組合もその気持ちをくみ取り、学校側からの打診



に対し、その受け入れを快諾しました。短期間ではありましたが、2名の若者に大阪の森林で何かを感じ取ってもらえたらという思いと、若者が入ることにより現場の職員の刺激になればと考えています。

未だ先行きの動向が不透明な林業界ではありますが、今後、盤石な組合の経営基盤を構築し、このような若者を積極的に受け入れて、大阪の森林を次代につないでいくことにも取り組む必要を感じています。



八塚君（南河内支店）



山下君（三島支店）

大阪府森林組合式 「丸太交差工」の考案

奥地小溪流での流木化防止と山地荒廃の予防・抑制

森林整備の際、発生する残置木や縦溝状の浸食、そこから流出して小溪流に溜まる不安定土砂など、これらの規模が小さい段階で流出対策しておくことが、山地荒廃を予防・抑制する上で効果的です。

しかし、そうした場所は流域奥地であることが多く、重機・資材搬入が難しく、費用対効果の検証や新たな山地荒廃の原因を生むことになりかねません。

これらの課題の解決に向け、現地において、溪間で流木の引っ掛かり方などを観察して、大きく4分類できることを確認。これを人工的に作り出せるのではないかと注目し、組合オリジナルの切り捨て間伐の残置木を用いた「丸太交差工」の開発に着手しました。

まず縮尺模型を作成して、実際の条件に近い状態で検討するなど作業を

進め、それらの結果をもとに今年4月、島本町大沢地区で実物を5基施工しました。

X型を基本型としながらも現地の状況に応じて丸太を組み合わせるなど、柔軟に対応しています。現在、施工後の変形や土砂堆積等の経過観察をしているところです。

設置場所から今夏の台風に伴う豪雨で土砂流出を確認しました。丸太交差工は隙間が大きいので、細粒土砂を止めることは想定していませんが、場所により、細粒土砂まで捕捉するための工夫が必要と考えています。なお流木の捕捉についても引き続き検討いたします。

この工法について11月29～30日に開催される近畿中国森林管理局の技術研究発表会に参加して発表する予定です。



実際の施工

この秋「オープンたかつき」が始動

様々な分野が連携し、市内外の人たちが高槻の良さを、ただ「見る」だけではなく、「まちを歩く」「歴史を訪ねる」「文化を味わう」「自然に遊ぶ」「食を楽しむ」といった体験を通じて、新しい魅力を発見し、知るほどに奥深い高槻に触れるとともに集えることができる、体験交流型観光プログラムが「オープンたかつき」です。

高槻森林観光センターも「オープンた

かつき」の「食を楽しむ」に、しいたけ狩り&バーベキューでエンタリー。新たなお客様を迎えることができるのではと期待を寄せています。

これからは4Kとよばれる「健康、観光、経済、環境」の重要性が増し、クオリティの高い「健康と観光」を提供するために地域の環境を整え、活性化を図る時代を迎えられているとされています。

森林が人々にもたらす恩恵を再認識し、森林の整備や観光センターの運営を進めたいと考えています。

「オープンたかつき」は来年3月31日まで、さまざまなプログラムが催されます。新たな魅力の発見を求めて、ぜひ「オープンたかつき」に参加してみませんか。

詳しくは公式ホームページ（<http://open-takatsuki.jp/>）をご覧ください。



オープンたかつき冊子

河内長野市から「木」のPR映像制作を受託

市域の7割を森林が占める河内長野市。その豊かな自然環境を市民のみならず市外にもPRし、「奥河内」の魅力を発信する映像制作業務を、河内長野市から受託しました。

それを受けて建築事業部では、映像のメインテーマを「木とともに暮らす」に設定。

大阪で活躍するデザインユニット「graf」と共同で、林業の現場／加工・製材／住宅建築と、河内材が生み出されて活用されるまでを優しい音楽にのせた動画が完成しました。

いろいろな立場の市民が身の回りの生活道具をDIYで製作する様子も紹介。

この動画は河内長野市が主催し「おおさか河内材」を用いた、子供に贈る机と椅子のデザインを募集するコンテストのイメージとしても採用されています。

河内長野市では、豊かな自然と多くの緑やきれいな水に恵まれた地域のPRを進めておられます。組合としても、PRへの協力とともに、「豊かな自然環境」の維持と「木とともに暮らす」生活の実現に向け、取り組んでいきたいと考

えています。

映像はyoutubeの河内長野市役所を検索いただくか、次のURLをご参照ください。



建築事業部もスタッフとして参加

youtube
URL

<https://www.youtube.com/user/kawachinaganocity>

モデルプランをラインナップへ

注文住宅から カスタマイズ住宅へ

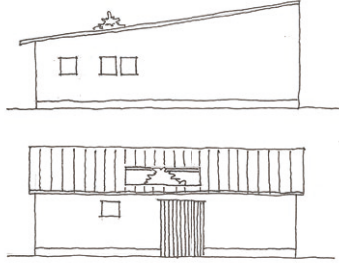
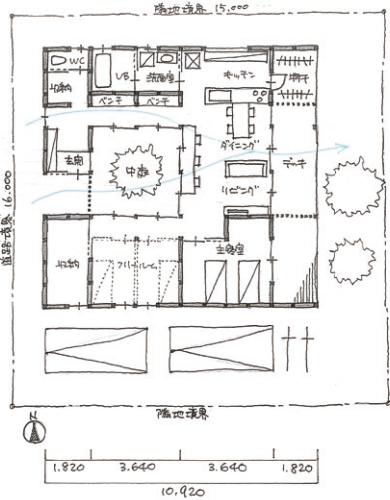
建築事業部では、自由設計の注文住宅に加え、モデルプランのご提案による家づくりに取り組んでいます。

モデルプランは敷地形状や家族構成に合わせた数例をご用意。そこからお客様のライフスタイルや条件に合わせてカスタマイズすることにより、最適の1棟を作り上げるができます。

モデルプランは、ご提案時に参考価格をお示ししていますので、お家の予算が把握しやすいだけでなくスピーディな、お打ち合わせが可能となり、トータルとしてコストダウンつなげることも可能です。

モデルプランは年内を目途に検討し、来年早々に建築部ホームページで公開致しますので、ぜひご覧ください。

■モデルの一例



土地概要
北東方位 240.46㎡ 古庫付 980坪
市街化区域 1種住居 宅地
面水44㎡公庫 50% / 100%

建物概要
建築面積 101.92㎡ (30.5坪)
延床面積 118.64㎡ (35.9坪)



モデルプランの元になる新築施行例

■建築事業部フリーダイヤル

☎ **0120-630-854**

■建築事業部ホームページURL

<http://www.sinrin.org>

HPもリニューアル

Facebookも開始

木根館 ラ・フォレスタ イベント情報

●ラ・フォレスタ ☎0721-72-0090

ホームページ▶<http://www.sinrin.org/foresta/sinrinforesta>

●木根館 ☎0721-64-8151

ホームページ▶<http://www.sinrin.org/kinkonkan>

木根館での木工イベント・ワークショップは、毎月1回のペースで開催しており、おかげ様をもちまして、好評を博しております。

このたび平成28年度下半期のイベントスケジュールが決まりましたので、お知らせいたします。

木根館では、新たにカトラリー（スプーン・フォーク）の手作りキットの取扱いを開始しました。これは昨年オープンした「くろまろの郷」のビクターセンターで受付、木根館にて製作作業を行っていただくものであり、木根館がある河内長野市高向地区の各種施設が連携し、地域の魅力向上に向けた取り組みの一環です。

おおさか河内材のヒノキで作るオリジナルカトラリーは、ご自身の記念として、また贈り物としても喜ばれます。

新たな仕掛けがいっぱいの木根館に、ぜひお越しください。

◇ワークショップ

施設名	イベント名	内容	開催日	申し込み
ラ・フォレスタ	森のマルシェ	フォレスタの屋外デッキにて、手作りスイーツ、地場産のお野菜の販売。建築事業部による住宅相談会も開催。	平成28年 11月27日	
ラ・フォレスタ	木彫り体験 バターナイフづくり	干支にちなんだグリップ部分が鶏の形のバターナイフづくり(さくら材)	平成28年 11月27日	随時受付
木根館	木工教室 ままごとキッチン	毎回人気のおおさか河内材でつくる「ままごとキッチン」(完成まで2日かかります) 490W×275D×910H	平成29年 1月22日、1月29日	平成28年 12月5日～
ラ・フォレスタ	寄せ紙細工 ～森の別宅～	戦慄する折り目の美しさ、造形の確かさを類を見ない紙細工がやってくる。	平成29年 2月3日～3月26日	平成29年 1月5日～
木根館	木工教室 ままごと冷蔵庫	ままごとキッチンと並べて使える「ままごと冷蔵庫」 300W×320D×600H	平成29年 2月26日	平成29年 2月1日～
木根館	花が際立つ ～花フレーム	お好みの花を並べれば、絵画のような可愛いフレームとなります。 500W×730D×950H	平成29年 3月25日	平成29年 3月1日～
ラ・フォレスタ	木彫り体験 小鳥のブローチづくり	ヒバの木色を生かした小鳥のブローチづくり	平成29年 3月26日	随時受付



カトラリーの手作りキット

■木根館 利用案内

室名	午前 9～12時	午後 13時～17時	全日 9～17時
大会議室	1,500円	2,000円	3,500円
小会議室	600円	800円	1,400円

木工室	中学生以上 200円／1時間
	小学生まで 100円／1時間
	●材料費は実費 ●5時間以上利用の場合は1,000円を上限（小学生は半額）

8/11は国民の祝日「山の日」 能勢妙見山 山の日フェスタ開催

(主催)能勢妙見山・能勢電鉄株式会社・
能勢町・大阪府森林組合豊能支店

これまで大阪府においては、毎年11月第2土曜日を「おおさか山の日」として、府内各地でイベントが開催されてきましたが、本年より「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ことを趣旨に、「山の日」が国民の祝日として、8月11日に制定施行されました。

はじめて国民の祝日となった今年の8月11日、大阪府能勢町(妙見山)において、「山の日」を記念し、地域の関係各機関が連携し「能勢妙見山 山の日フェスタ」が開催されました。

当日は、暑さ厳しい中にもかかわらず、クリーンハイキングだけでも490名の参加があり、日々の山の恵みに感謝し、ハイキングを楽しみながら、ゴミ拾いにも汗を流していただきました。

組合ではクリーンハイキングの参加者に感謝の意味を込めて、「山の日記念焼印入り丸太コースター」をプレゼント。オリジナルの焼印を押したコースターは参加者にも大好評でした。



山の日記念焼印入り丸太コースター

当日は他にも能勢妙見山による登山靴供養や、一万年のブナ原生林内でのライブ、薪割体験、その他にも能勢電鉄沿線の地域団体や店舗、登山用品専門店など数多くの出店があり、イベントは大盛況のうちに終わることができました。

このようなイベントを通して、山や森林への市民の意識と理解を高める活動に取り組んでいきたいと考えています。

島本町林業推進協議会 近畿ブロック林業研究グループ 活動発表コンクールで2位入賞！

8月9日に近畿ブロック2府5県の各地で推薦された林業研究グループの活動発表コンクールがあり、大阪府を代表して島本町林業推進協議会が参加、事例の発表が行われました。

同協議会では森林整備を推進するために、島本町や森林組合と連携を取りながら、天王山周辺森林整備やサントリー天然水の森、森林・山村多面的機能発揮対策事業、境界明確化事業、島本町農林業祭などの各種事業について、各地区の推進委員が地元森林所有者への啓発や説明会の段取り、同意の取りつけへの協力や、会員有志による自発的な竹製品製作提供のボランティア活動、町民主体の環境セ

ミナー開催などにも取り組んでおられます。

コンクールでは、東大寺地区の井上和夫委員が発表者となり、上述のような地道であるものの、日々の幅広い活動を発表されました。

他府県代表からは、山間部の苦労や林業の低迷という厳しい状況の中で、観光や地域振興など地域に根ざした独自の取り組みが発表され、今後の参考になる事例ばかりでありました。

その中でも同協議会の活動は、都市近郊の立地であるがゆえ、身近な森林への関心が低い中で、森林林業への理解者を増やす努力を認めていただき、見事2位に入賞されました。



コンクールで入賞を果たした島本町林推協委員(写真中央、賞状を持つのが井上委員)

全国育樹祭に出席してきました。

10月9日に京都府南丹市日吉町にある「府民の森ひよし」で第40回全国育樹祭が開催されました。

育樹祭は国土緑化運動の一環として、活力あるみどりの造成機運を高め、次世代にわたる連体制を深めることを目的に、植樹祭を開催した都道府県において、毎年秋季に行われる全国行事です。

本年は隣県の京都での開催ということで、当組合からも組合長ほか数名で式典に出席してまいりました。

ご臨席された皇太子さまより、「森林を守り育て、木とともに人々が暮らしてきた文化が、京都の地から全国、未来へ継承されていくことを願う」とのお言葉をいただき、育樹祭が開幕。

ステージアトラクションでは、北山杉の枝を幹から切り落とす「枝打ち」や、木の光沢を引き出す「丸太磨き」の職人技、伝統儀式「鉦(ちやうな)はじめ」が披露され、特に細く伸びた杉の木に登り、枝払いをする様子には歓声が上がっておりました。

式典のステージには、京都の伝統である北山の磨き丸太を背面に配置し、ステージや会場のベンチ、プランターカバー、花壇に至るまでふんだんにスギ・ヒノキ材が使



育樹祭会場



北山杉の枝打ち

用されるなど木材との関わりをアピールされていきました。

国土緑化が目的である育樹祭ですが、管理が行き届かず荒廃に直面している森林も少なくないことから、林業振興や木材の利用など、森林との共栄共存をテーマとして取り上げられるような催しとすることを、一考すべきではないかと感じました。

来年は香川県での開催が予定されています。



丸大食品
心に残る贈り物
丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます

大阪府森林組合の皆様には
特別価格でご案内申し上げます。
同封のチラシをご覧ください。

丸大食品株式会社 中日本特販営業課
〒557-0063 大阪市西成区南津守2-1-10
TEL 06(4398)3038 FAX 06(4398)3063